

日本塗装機械工業会 会長 壺田貴弘

新年あけましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は世界がコロナ禍という未曾有の大惨事に遇い、当工業会におきましても、総会などの会合は全てWEB化とするなど実質的な活動が一時停滞いたしました。昨年は2016年度に引き続き2度目の会長を拝命し、2030年に向けて大幅な組織改革を行い会員ともどもSDGsの具体的な目標設定などに取りかかった所でした。

即ち、21世紀3ビジョン（①塗装の価値創造・展開②地球環境の保全③共生と共栄）を原点として21世紀の20年間活動をしてきましたが、今後10年間はSDGsの17項目の内、7. エネルギーをみんなに 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナーシップで目標を達成しようの5項目を重点目標として具体的な活動を展開していくことにいたしました。

また、活動を円滑に進めるため、組織を内外に分かりやすい5委員会（①運営企画委員会②統計委員会③技術委員会④広報委員会⑤シンポジウム委員会）に統一し、会員50社がそれぞれの立場で、塗料・塗装業界の向上に取り組み、産業、社会の発展に寄与して参ります。今年度は、活動テーマを「環境対策」と「塗装の自動化」に絞り、これまでの活動を中心に情報交換、情報発信を図って参ります。

昨年は20年連続で開催してきましたCEMAシンポジウムも21回目で初めて中止となりましたが、各委員会でコロナ禍、コロナ後を見据えた活動を検討しておりますので、今年度は業界発展へ貢献できる活動を計画しますのでよろしく願いいたします。対外的には、東西での高機能塗料展への出展をしましたが、「三密」対策としてビデオ放映を止め、カタログ提供程度に留まり、次回はより工夫をして情報提供したいと思います。昨年のリモートワークの経験から、ホームページの発信の重要性を認識させられましたので、5Gの時代に適合した内容に更新し、情報発信を展開いたします。

業界活動は、これまでのIPCOとの連携、次世代チームラボの支援等、塗装機械の立場からご協力を継続するとともに各団体の潤滑剤の働きをしたいと思っております。

コロナ禍の影で地球温暖化の影響による水害も頻発いたしました。環境をキーワードに活動してきた実績を生かし、塗装業界でのVOC削減、CO2削減の目的を忘れず新たな商品開発に努め情報提供して参ります。今年はオリンピックも予定されており、日本人には明るさが戻りますので、経済状況も好転するものと思われ、塗料・塗装のニーズも拡大が期待されます。日本の少子高齢化など長期的な課題も含めて、塗装の在り方を皆様方とともに探索し、2030年に向かって塗装機械面での役割を果たして参ります。

世界の政治、経済状況も、大きな転換が予想されますが、CEMAは物作りの原点を忘れずに業界発展に全力を尽くして参りますので、ご協力をよろしく願いいたします。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。